

2008



おいし-OEC- ニュースレター



NPO法人 おきなわ環境クラブ

私たちは、「自然と環境の保全は足元から!」をモットーとしています。



やんばるの山にフヨウの花が咲き始め、水辺には冬の渡り鳥が飛来する季節になりました。早いもので、前回のニュースレターをお送りした4月からひと夏を越しました。今年の夏の暑さは例年に比べ長かったような気がします。最近雨の日も多く肌寒いくらいですね。季節の変わり目で暖かくなったり寒くなったりと気温の差があります。皆さま体調に十分気を付けてお過ごしください。



さて前回のニュースレターでは、今年1月から宮古島・八重山での環境啓発活動を少しずつ広げていることを皆さまにご報告しました。今回は沖縄本島での半年の活動に加え、宮古支部での活動を中心にご報告したいと思います。その様子は3ページで紹介していますので、是非ご覧ください。

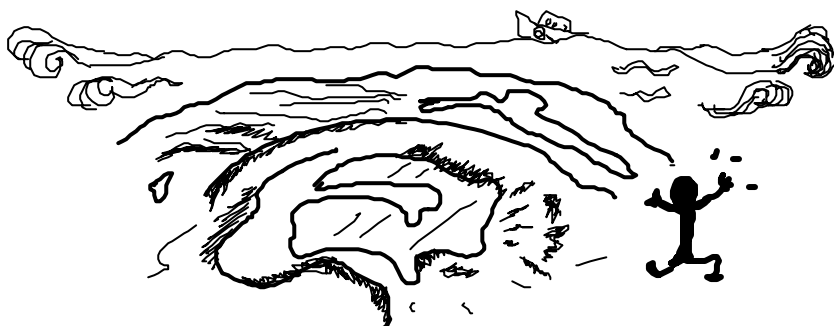


～半化石の巨大サンゴは、何を語るか～

グリーンからコバルトブルーへ…。そして透明なほだすんだ海。太陽の光のゆらめく中、鹿の角やサッカーボールのような形と色のサンゴ群、様々な形の貝類や熱帯魚の群れ。これが人々を魅了してやまない沖縄のサンゴ礁の海である。かつてこの様な世界は、我が国では関東地域の海まで広がっていた。だがこのサンゴ礁の海は次第に南下し、いま沖縄県がその北限となっている。生物が気候の変動に伴い繁栄して、分布を広げあるいは縮小したりすることは、過去に何度もあった自然現象である。

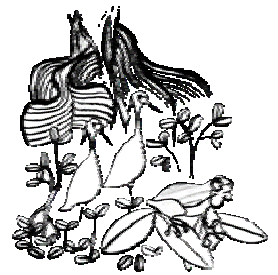
最近、沖縄島の東海岸側のリーフで、巨大サンゴが発見された。5×7 ㍍ほどの楕円形の大きさと、他に小型のものが7～8 個ほど確認された。地層に含まれたサンゴでこれほどの大きさのものは見たことがなく、おそらくギネスブックの仲間入りも可能と思われる。サンゴの種類は、ハマサンゴの仲間で、サンゴ塊の中央部はウニに穿孔(せんこう)されたり波で破壊されて窪み、隆起環礁(りゅうきかんしょう)を思わせる構造である。南北大東島の地形のミニ版であり、微(び)環礁(マイクロアトール)と呼ばれる所以である。現在サンゴ虫は死滅し、半化石の状態である。おそらく現在よりも海面が高かった縄文(じょうもん)海進ごろのものかと推測される。この死に瀕した海からは、前述の竜宮城は想像し難い。巨大サンゴ群の死滅は自然現象の周期的な変動によるのか、あるいは人の行為の故なのか定かでない。我々は、変化する自然現象を素早く感じ取りたいものだ。

おきなわ環境クラブ 会長 大城逸朗



大きく成長するに従って、頭が水面に達すると、それより上には成長できず、台形に広がります。

最近の活動(2008年4月～2008年11月)



助成金事業

地球環境基金助成(独立行政法人 環境再生保全機構)

全労済地域貢献助成金事業 特別助成団体(全国労働者共済生活共同組合連合会)

- 5/25 第5回 添道サガリバナ遊水池 My キーフジ作戦 場所:宮古島市添道 人数:約20名
6/13 浦添市立浦城小学校の出前講座「グスクの話」 講師:屋嘉比柴紀(沖縄エコツアーガイド) 場所:浦城小体育館 人数:250名
6/21-8/9 川満エコガイド養成講座全15回(水曜日:講義、土日曜日:視察・実習) 場所:宮古島市川満集落及び宮古島島内 人数:16名
6/24 添道サガリバナ鑑賞会 場所:宮古島市添道 人数:20名
7/19-12/24 糸満市報得川環境対策指導員養成講座 全10回開講 人数:20名
8/1 川満マングローブ 野外観察会 講師:山本ゆかり(宮古エコツアーガイド) 場所:宮古島市川満 人数:約30名
8/10 川満マングローブボランティア清掃 場所:宮古島市川満 人数:約20名
9/16 石垣市立白保中学校出前講座 講師:石垣市村づくり課、谷崎樹生(石垣島自然観察の会 会長) 場所:石垣市立白保中学校 人数:75名
9/21 第6回 添道サガリバナ遊水池 My キーフジ作戦 場所:宮古島市添道 人数:18名
11/23 第7回 添道サガリバナ遊水池 My キーフジ作戦 場所:宮古島市添道 人数:27名
■ 環境教育プログラム教材作成のためのフィールド調査:宮古島内2回 伊良部島内2回

受託事業

沖縄県地域環境セミナー(沖縄県文化環境部環境政策課)

- 7/16 第19回「屋上・壁面緑化で温暖化防止」 講師:末吉則子(NPO法人沖縄県都市住環境センター 理事長) 場所:県庁11階 人数:38名

沖縄県地域環境センター・出前講座(沖縄県文化環境部環境政策課)

- 5/16 第25回「ストップ地球温暖化の取り組み」 講師:高平兼司(沖縄県地球温暖化防止活動推進センター) 場所:学校法人KBC学園 インターナショナルデザインアカデミー高等課程 人数:22名
6/2 第26回「沖縄の天然記念物 在来種・外来種ってなあに」 講師:佐々木健志(琉球大学風樹館 学芸員) 場所:神原小学校6年生2クラス 人数:84名
6/16 第27回「沖縄(やんばる)の植物」 講師:山川雄二(国頭ツーリズム協会) 場所:安田小学校エコクラブ2~6年生 人数:19名
8/14 第28回「沖縄の天然記念物」 講師:佐々木健志(琉球大学風樹館 学芸員) 場所:糸満市がじゅまる児童館 人数:12名
9/20 第29回「足元からの地球温暖化防止」 講師:高平兼司(地球温暖化防止活動推進センター) 場所:糸満青年の家 人数:23名
11/1 第30回「泡瀬干潟の生き物たち」あげだ児童館エコクラブ 講師:前川盛治、他2名(泡瀬干潟を守る連絡会) 場所:泡瀬干潟 人数:20名
11/5 第31回「ゴミから環境について学ぶ」 講師:宮良弘子(アースの会) 場所:浦添市立港川小学校 人数:142名

沖縄県地域環境センター・野外観察会(沖縄県文化環境部環境政策課)

- 7/8~16 第13回「夜のサガリバナ鑑賞会」 講師:保村亨・朝武士玲子(沖縄エコツアーガイド) 場所:県庁構内 人数:約500名
8/23 第14回「やんばるの川へ水生生物調査に行こう」 講師:保村亨(沖縄エコツアーガイド) 場所:大宜味村平南川 人数:39名
11/22 第15回「石垣島の森のスープとサンゴ礁」 講師:谷崎樹生(石垣島自然観察の会会長) 場所:石垣島佐久田川 人数:15名

独立行政法人国際協力機構(JICA)沖縄国際センター

- 4/7-6/27 集団研修 第5回熱帯・亜熱帯地域におけるエコツーリズム企画・運営コース 場所:沖縄県内各地(一部県外先進地) 人数:10名
8/11-9/26 地域別研修 第3回持続可能な観光開発(ミクロネシア3国)コース 場所:沖縄県内各地 人数:5名
10/6-17 地域別研修 第3回島嶼国漁村主導型水産業多様化促進コース 場所:沖縄県内各地 人数:8名
11/10-21 国別研修 ドミニカ共和国カウンターパート研修 場所:沖縄県内各地 人数:4名

その他の事業、各協議会・検討委員会の参加等

- 6/4 宮古島水循環計画策定協議会 会議参加 下地邦輝(OEC副会長) 場所:宮古島市
7/1 沖縄県体験型観光推進協議会・プログラム向上部会 会議参加 三浦弘之(OEC研究員) 場所:読谷村
8/28-11/27 沖縄県持続可能な観光地づくり支援事業ワーキンググループ 第1~4回会議参加 吉田透(OEC事務局長) 場所:那覇市
9/29-11/27 宮古島環境モデル都市推進協議会 第1~4回会議参加 鳥毛神奈美(OEC宮古支部研究員)
10/14-21, 28 沖縄ウエル・スポーツ専門学校出前講座 講師:屋嘉比柴紀(沖縄エコツアーガイド) 人数:16名
・10/14 第1回「ウチナーグチ」講座・10/21 第2回「沖縄の井戸・お墓・食文化」講座・10/28 第3回「世界遺産」講座
10/10-17 財団法人沖縄県環境科学センター委託「国際サンゴ礁年記念パネル展の開催」-宮古空港
10/20 読売旅行「国場川河川敷におけるサガリバナ植樹」 場所:漫湖公園右岸 人数:10名
11/8 JICA 沖縄国際協力・交流フェスティバル2008 OECブース出展 場所:浦添市 JICA 沖縄国際センター
11/30 アジェンダ21 沖縄県民環境フェア in はえばる OECブース出展 場所:南風原ジャスコ駐車場内

宮古島「川満エコガイド養成講座」でガイド16名が誕生！

この講座は宮古島にて、川満マングローブや漁港、湧水など、川満集落を中心に歴史・文化・自然・水環境・生活」の面からツアーを案内できるガイドとして基本的な知識と技術を習得することを目的に、川満集落と OEC が協働して活動する地域コミュニティプロジェクトの一環で人材育成講座がおこなわれました。平成 20 年 6 月 21 日～8 月 9 日にわたり、講義・実習・見学など全 15 回、合計 30 時間に及ぶ講座を無事終了し、受講生 16 名が「川満エコガイド」として誕生しました。晴れてガイドとして認定を受けた方に感想を伺うと、「私たちはこれまでたくさんのお話を学んできました。川満集落が『エコアイランド宮古島』の発信地になれば嬉しいです。」「湧水の量が減っているの、昔の量を取り戻すための活動を広げていきたいです。」との思いを語って下さいました。今後はプロのガイドとして、宮古島の人々や観光客が楽しく学ぶために活躍することが期待されています。



宮古島「添道サガリバナ My キーフジ作戦」

宮古島市の添道サガリバナ遊水池で、平成 20 年 1 月 20 日に「第 3 回宮古島ワークショップ」が開催され、伊志嶺宮古島市長と当クラブの大城会長がサガリバナの苗木を記念植樹し、同地における「My キーフジ作戦」がスタートしました。添道遊水池周辺が宮古島で唯一、サガリバナの群生地となっていることから、その活用と保全を目的に「水辺の環境づくりとエコツーリズムの場づくり」をすすめることにしたものです。

開始式では、伊志嶺市長と大城会長から「この地が環境教育とエコツーリズム、さらには観光客と住民の憩いの場となることを期待します。」と参加者への激励がありました。お二人による記念植樹の後、当クラブの地下副会長から保育管理講習がおこなわれ公募した保育管理者がそれぞれ苗木の植栽をしました。今後も水辺環境の整備に取り組みながら、一緒に活動する保育管理者を募っていくことにしています。



沖縄県地域環境セミナー 第 26 回出前講座 那覇市立神原小学校

琉球大学風樹館の佐々木先生を講師に迎え、沖縄の天然記念物について、それらが置かれている自然環境の現状を知り、身の回りの環境に目を向けて自分なりの考えを持つことを目的に行いました。初めに「私たちが住んでいる沖縄にはとってもしずい自然があるということを知ってほしい」と講師が話しました。「天然記念物とは研究する価値のある自然のもの」と話し、貴重な生き物や珍しいもの、数が少ないものなので、国や県、市町村で指定して法律で守っていることを説明しました。またヤンバルクイナやアカヒゲなど、普段は聞けない鳥たちの鳴き声を聞かせてもらいました。

まとめでは「自然を守るためには、どんな自然か？何が起きているか？と知ることから始めていき、本当に必要なものは何か？と生活を見つめなおして地域ごとにできることから始めていくことが大事」と伝えました。講話の後、生徒たちは、講師が持って来てくださったノグテガラやカラスバトのはく製や、ヨナグニサンなどの昆虫の標本を熱心に観察していました。



沖縄県地域環境センター第 14 回 野外観察会「やんばるの川へ水生生物調査に行こう」

豊かな自然が残る大宜味村平南川へ水生生物調査に行きました。講師の保村さんから平南川へ向かうバスの中で、沖縄県の川の現状や人口が南部に集中しており生活排水の影響で川が汚れているとの話がありました。川に着くと、生物の採取方法や探す範囲を決めて調査をスタートしました。川べりのほうではエビを見つけ、大人も子供も楽しんでいました。1 時間ほど生きものを採取したあと、見つけた生物の集計を行い、水質階級の判定をしました。トビケラやヤゴなどがおり、判定結果は「水質階級：きれいな水」となりました。また COD パックテストを用いて「川の水」と「しょう油を数滴加えた川の水」を比較しました。しょう油を少し加えるだけで、生きものが息できなくなるぐらいの水が汚れることを提示し、生活排水が川の水を汚していることを説明しました。今回体感した自然のきれいな川と家の近くの川との差を感じ、家庭からの生活排水についてどういった対策をとればいいのかを見つめ直すよい機会になりました。

JICA 地域別研修『持続可能な観光開発（ミクロネシア 3 国）』

マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、パラオ共和国の観光行政職員を対象に、自国の自然環境や財源措置を考慮した観光振興の実現に向けて、実施可能な行動計画を作成できる人材を育成するための研修を企画・実施しました。前回までと同様に、沖縄で観光振興に取り組んでおられる方のご協力をいただき、講義や視察、実習がおこなわれました。離島での現地研修を充実させたところ、帰国後に研修成果を応用できるという手ごたえをつかんだようです。

本年度末にはパラオ共和国の帰国研修員 7 名を対象に、現地でのフォローアップをおこなう予定です。本研修コースは今年度で一区切りしますが、次年度以降は太平洋州全域を対象を広げた研修コースの継続を要望しています。研修関係者のご理解・ご協力に感謝するとともに、沖縄の観光や環境へも良い影響を及ぼす研修となるよう心がけたいと思います。



沖縄エコツアーガイド VOICE

もともと環境問題には興味関心はあった。私のエコのイメージは、買い物袋を持参するとか、マイカップやマイ箸を持つとか。しかし、エコツアーガイドって何だろう？と思い受講して驚いた。宿題が毎日たくさんあるので睡眠不足になるし、あまりに濃い内容についていけないかと不安にかられながらも、一緒に学ぶ仲間たちとキャンプに行ったりして、大自然を満喫した。今思えば、人生で一番勉強し遊んだ充実した日々だった。そして自然と親しむことがエコなんだと実感した。もっともっと沖縄のことを知りたいと思った。私は那覇に住んでいながら、干潟のことや、マングローブのこともよく知らなかったが、改めて、自分の周囲をみなおすようになった。ガイドをすることで学び続けたいと思っている。

●ガイドをして感じた事：

サガリバナ鑑賞会でのガイドのとき、たくさんの方が見学者が訪れた。こんなにもの人が、自然を愛し、楽しんでいる様子を見て私はとても嬉しくなった。親子や夫婦、友達同士でとさまざまな人たちが笑顔だった。まるで夢のようなひととき。最高に贅沢な時間をすごさせてもらった。

●最後に一言：

沖縄の青い海、青い空、緑の森。子供達に残してあげることが大人の役目。エコツアーガイドはそのお手伝いをする。難しいことじゃない。一人一人が自分の周りを素直な気持ちで見ること。朝、小鳥の声で目が覚める。ベランダの草花にチョウチョウやトンボが羽をやすめている。夜になるとコウモリが空を飛んでいる。自然は私たちのすぐそばにある。小さな生きている命を大切に心ささえれば、大きな地球を守ることに繋がってゆくと私は信じている。

(沖縄エコツアーガイド 3期生：朝武士玲子)



琉球弧・海辺の植物

和名：クサトベラ (クサトベラ科)
学名： *Scaevola sericea*
分布：屋久島・種子島以南



海岸の砂浜や隆起珊瑚礁上に生える常緑低木で高さ1～2mに達し、アダン群落の前面で海岸低木林の最前線を形成する。

核果は白熟し、内果皮はかたいコルク質、1年以上の間海水に浮かんでも発芽力を失わず、海流によって遠距離まで散布される。属名はラテン語の「左利き」の意味で、花冠が左の手のひらを広げた形に似ていることによるという。

♪お知らせ

♪『第14回 国場川水あしび』へのお誘い

毎年恒例となりました、国場川水あしび実行委員会主催による表題のイベントが今年も開催されます。昨年は、各出展ブースでクイズウォークラリーが行われましたが、今年は協力団体による「体験型ネイチャーゲーム」が午後から行われます。

OECは、その協力団体の一つとして「リバーコーミング」体験を行う予定です。皆さん、どうぞお誘い合わせのうえご参加お待ちしております。

なお、ネイチャーゲームには定員が限られています。当日、会場にてご確認くださいね！

日時：平成20年12月13日(土) 9:30～15:00
場所：漫湖水鳥・湿地センター
主催：国場川水あしび実行委員会
事務局：(豊見城市生活環境課) 098-850-5520

今後の主な予定

沖縄県地域環境センター (2009年1月～2009年3月)

- 1月 第20回 地域環境セミナー
『おきなわの地史と石になった生きものたち(仮)』
- 3月 第16回 野外観察会
『首里の湧水めぐり』

※ 開催内容は都合により変更することがあります。詳しくは、下記までお問い合わせください。
沖縄県地域環境センター (県庁4階) TEL:098-866-2638
<http://www.ii-okinawa.ne.jp/people/kankyo-center/>

助成金活動

■平成20年11月～平成21年3月

平成20年度 地球環境基金助成金事業3年目(継続中)

■平成21年1月～平成21年12月

第2回かいぜん環境貢献基金(1月より開始)

※そのほかにも助成金事業に申請中！

JICA 研修事業

1/12-2/20

平成20年度 持続可能な観光開発(カリコム諸国)

4/13-7/3

平成21年度 熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム企画運営コース

OEC(おいしー)ニュースレター No.12 2008年12月発行
特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ 国場事務所
〒902-0075 沖縄県那覇市国場370-107
Tel. 098-833-9493 Fax. 098-833-9473
E-mail. kokuba@npo-oec.com
URL. <http://www.npo-oec.com/>

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ 宮古支部久貝事務所
〒906-0015 沖縄県宮古島市平良字久貝 1059-203
Tel&Fax. 0980-73-5307
E-mail. oec-m1@miyako-ma.jp

OEC